

## 緒言

本集には、黒瀬氏の『大笑小笑』おほわらひこわらひ一冊を收む。

氏は山口縣厚狹郡西秀寺の住侶。學を佛教大學に修得し、いま現に職を布教界に執り、兼ねて著作に従事す。嚮きに『佛の心と親心』を公刊して、其令名を馳せ、今また新たに『大笑小笑』を著さる。蓋し、面白く可笑しき間に嬉しく有難からしめ、皮肉にして痛快なる間に、深刻なる印象を與へて、如來の大法を傳へ、牢固拔くべからざる信念を得せしめんとするに外ならざるなり。されば、大笑とは信樂開發の相にして、小笑とは歡喜踊躍の狀なり。その滑稽諧謔は、一に氏が信仰の妙味にあらざるはなし。庶幾くは讀者、頼ひに、當場のがれの人笑はせをなす、かの落語家一流と混ざるなからんことを。

字句の訂正、冠頭目次の如きは、凡て既刊の例に従へり。

大正五年一月

校訂者識す